

対象病害	処理薬剤	処理方法	注意事項
種子消毒 (いもち病、 ばか苗病)	テクリードCフロアブル (100 ml)	200 倍に希釈した液に 24 時間浸漬する。	種モミ1kgに対して 希釈した薬液量 1.7ℓの 割合で処理する。 ① 液温は 10℃以上 (15℃前後が理想)とする。 ② 消毒後は水洗いせず、浸種する。浸種まで日にちが 空く場合、陰干して風乾させる。 ③ 使用後の薬液は毒性が強いので河川に流したりせ ず、適切な処理をする。
苗床 (苗立枯病)	タチガレエース M 粉剤 (1 kg)	育苗箱1箱(±5ℓ) 当り6~8g混和する。	① 薬量が多いと生育に害が出るので適正量で使用する。 ② は種当日の混和を基本とする。事前使用では効果が落ちる場合ある。 ③ リゾープス菌による苗立枯病対策には「ナエファイン粉剤」を使用する。
苗箱施薬 (害虫、 いもち病)	ブーンパディート箱粒剤 (1 kg)	育苗箱1箱当り 50g	① いもち病が心配ない圃場は「パディート箱粒剤」に代えて使用する。 ② 紋枯病が昨年多発した圃場では「稲大将箱粒剤」を使用する。 ③ 移植当日に使用する場合は、植付け直前に散布する。 散布後長く放置すると薬害が発生するため、早めに植えつける。

月 日	散布時期	散布薬剤(10a当り使用量)	代替農薬(10a当り)	注 意 事 項	
月 日	特別散布 代かき直後	【省力】 先陣ジャンボ (200g(小包装×10個)) (植代後~移植7日前)	200g	エリジャン乳剤 (300 ml) (植代後~移植7日前)	① 田植えが代かきから7日以上後となる場合に限り 実施する。 ② 実施した場合、散布後7日間は落水しない。 ③ 代かき直後の水が濁っている時に散布する。
月 日	第1回 田植え 翌日後	アップレZ1キロ粒剤 (1kg)(移植直後~)	1kg	【省力】 アップレZジャンボ (400g)(移植後3日~) シンズイズフロアブル (500ml)(移植後3日~)	① ジャンボ剤は散布前に水深を確保しておく(約5cm)。 ② 除草剤散布後3日間は入水しない。 地面が露出してしまう場合は、露出する前に入水する。 ③ 代かきから第1回の除草剤までの日数が開くほど、 雑草発生リスクはあがる。 ④ 薬害回避のため「移植後3日~」となっている剤は使 用時期を間違えないよう注意する。 ⑤ 藻が全体の4割以上発生してしまった場合、モゲトン 粒剤(3kg)を10a当たり2~3kg散布する。

ガス湧き対策(田植え10日後):田に入った時泡が発生する場合は、田植え10日後から7日間程干してガス抜きをする。
ガス抜き後に入水したら、雑草の発生を確かめ第2回の防除を実施する。

月 日	第2回 田植え後 20日頃	レプラス1キロ粒剤 (1kg)(移植後14日~)	1kg	【省力】 ツイゲキ豆つぶ250 (250g)(移植後14日~、 稲5葉期以降) 【省力】 ソニックブームSジャンボ (500g(小包装×20個)) (移植後14日~ 但し、稲4葉期以降)	① 雑草の発生に応じて実施する。 ② 雑草の初期発生を見逃さないために、田んぼを覗き 込んで確認する。雑草が水面から出る前に早めに実 施する。 ③ ツイゲキ豆つぶ250はジャンボ剤の一種です。
月 日	特別散布 中干し期 (落水処理)	【粒タイプ】 バサグラン粒剤 (3kg)(収穫45日前まで) 【散布タイプ】 クリンチャーバスME液剤 (500ml)(収穫50日前まで)	3~4kg 水100ℓに 1,000ml	【散布タイプ】 ロイヤント乳剤 (水100ℓに200ml) (収穫45日前まで)	① バサグラン粒剤はヒエには効果がないため注意。 ② ロイヤント乳剤はホタルイとクログワイに対して効果 が期待できないため注意。 ③ 散布後4日間は水を入れない。 ④ 散布後2日間に降雨があると効果が落ちるので、 天候に注意する。 ⑤ 降雨が続く場合は晴れ間を見計らって「ロイヤント乳 剤」を散布する。(散布後2時間は降雨が無い時)
月 日	特別散布 いもち病 出穂 20日前	【省力】 コラトップジャンボP (500g(50g×10個))	小包装 10~13個 (500~650g)	ブラシン粉剤 DL (3~4kg)	① いもち病の穂への感染を抑える目的で実施。 ② 湛水状態で使用する。 ③ 感染を予防するためなので、遅れると効果が薄い。
月 日	特別散布 出穂 7日後	【カメムシ対策】 スタークル豆つぶ (250g)	250g	トレボン粉剤DL (3~4kg)	① 湛水状態で散布する。 ② 散布後3日間は、有効成分が薄まらないよう入水を 控える。